

くすやま美紀(樟山みき)活動報告

2021. 8. 19 NO. 316

連絡先 荻窪5-15-19-704 電話 080-5531-8236

区議会控室 3312-2111(内)2319 FAX 3312-2610



新型 コロナ対策

杉並区に9回目の緊急申し入れ 爆発的な感染拡大 万全の対応を！



保健福祉部長に申し入れ書を手渡しました

申し入れ項目

1. 発熱等の症状が起きた場合の受診・相談センターの電話相談体制を緊急に拡充すること。
2. 保健所体制の抜本的強化、区の総力をあげた支援体制を組むこと。
3. 自宅療養者が、病院、療養施設へ入所できるよう、施設確保に全力を尽くすこと。自宅療養者への相談、往診、オンライン診療などの体制の確立。食料支給など生活支援のすみやかな実施。
4. 地域の診療所や、医師・看護師等医療関係者に対し、事態と対応への理解と納得を重視しつつ、患者急増対応への協力を求めること。また医療機関の実情を把握し、必要な支援も行うこと。
5. 補正予算を含め、必要な財政措置をとること。

(申し入れ全文は党区議団ホームページに掲載しています)

日本共産党杉並区議団は、18日、杉並区に対し、新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大が起きているもとで、深刻な事態にふさわしい対応をとるよう、緊急に申し入れを行いました。上保まさたけ衆院8区予定候補も同席しました。

自宅療養者 1000人を超える深刻な事態

杉並区でも8月以降、新規感染者数が劇的に増加。発熱等による受診・相談センターへの相談件数も急増しています。(裏面参照)

さらに深刻なことは、病院、療養施設に入ることができず、自宅

療養を余儀なくされている人が1000人を超える事態となっていることです。

区民、医療関係者から切迫した声

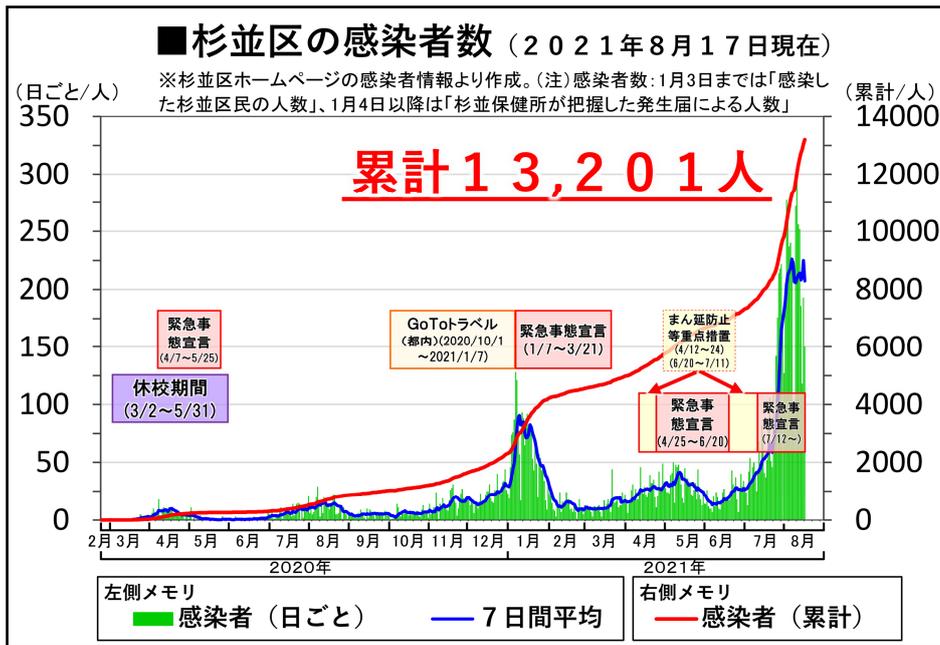
党区議団には、区民、感染者と家族、地域の医療関係者から、下記のような切迫した声が寄せられています。こうした声も紹介し、左記の5項目を申し入れました。

保健福祉部長が応対し「やれることは最善を尽くしている。申し入れ項目については検討したうえで、速やかにやっていきたい」と答えました。

党区議団に寄せられた声

- ・発熱相談の電話が通じない。
- ・保健所で対応できない方から診療所に相談が殺到している。
- ・在宅療養専門の相談窓口を開設してほしい、食料の配布が遅れている。
- ・通常医療を行いながらワクチンの集団接種も協力しているが、その上自宅療養者への往診といわれても大変。

杉並区内の新型コロナウイルス感染状況



杉並区の1日当たりの平均新規感染者数は、7月1日からの2週間は39人でしたが、8月1日からの2週間では217人と、わずか1か月で5・56倍に急増しました。

発熱等による受診・相談センターへの相談件数（下表）も、7月初旬の1日50〜60件から、8月初旬以降は200件近くに急増しています。

こうした状況下で、パラインピックをやっている場合ではありません。

政府の責任で、入院病床を増やすとともに、医療機能を強化した宿泊療養施設や臨時の医療施設を大規模に増設し、医療従事者を集めて、早い段階からの治療を開始することによって重症化を最大限防ぐべきです。

日にち	28日(月)	29日(火)	30日(水)	7月1日(木)	2日(金)	3日(土)	4日(日)	1週間計	累計
相談件数	102件	53件	88件	66件	58件	閉庁	閉庁	367件	26,651件
日にち	5日(月)	6日(火)	7日(水)	8日(木)	9日(金)	10日(土)	11日(日)	1週間計	累計
相談件数	76件	72件	99件	79件	54件	閉庁	閉庁	380件	27,031件
日にち	12日(月)	13日(火)	14日(水)	15日(木)	16日(金)	17日(土)	18日(日)	1週間計	累計
相談件数	113件	110件	97件	94件	79件	閉庁	閉庁	493件	27,524件
日にち	19日(月)	20日(火)	21日(水)	22日(木)	23日(金)	24日(土)	25日(日)	1週間計	累計
相談件数	91件	89件	135件	閉庁	閉庁	閉庁	閉庁	315件	27,839件
日にち	26日(月)	27日(火)	28日(水)	29日(木)	30日(金)	31日(土)	8月1日(日)	1週間計	累計
相談件数	131件	120件	124件	117件	137件	閉庁	閉庁	629件	28,468件
日にち	2日(月)	3日(火)	4日(水)	5日(木)	6日(金)	7日(土)	8日(日)	1週間計	累計
相談件数	137件	191件	131件	159件	191件	閉庁	閉庁	809件	29,277件

コロナ禍で中止になった 商店会イベントの準備経費 東京都の補填が実現

コロナ禍で中止を余儀なくされた商店会イベントの準備経費について、今年度は、東京都が補填をすることが明らかになりました。

都は、商店会振興のためにイベントの準備・開催費用に補助金を出しています。しかし昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大によってイベントの中止を余儀なくされ、準備金が商店会の持ち出しになるという事例が発生しました。

日本共産党区議団は、「こうした事例を知り、第一回定例会で金子けんたろう、富田たくの両区議が、都に準備費用の補填を求めるよう質問。区の担当者は「都及び本区で準備経費について、協議・調整をはかっている」と答弁しました。

その結果、今年度については、準備費用を都が負担することになったと、杉並区産業振興センターより連絡がありました。

商店会と連携して実現した日本共産党区議団の貴重な成果です。

